

令和7年度 未来を拓く生徒主体の授業づくりプロジェクト計画書(報告書)

学校番号	20	学校名	都留高等学校	全・定・通	全	在籍生徒数	495	名
スクールポリシー (学力に関するもの)	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な人間力を高め、次代の地域と日本を担うグローバル人材を育成する。 個性と能力を最大限に伸ばさせ、各自が納得できる進路実現を図る。 							
グラデュエーション ポリシー	<ul style="list-style-type: none"> 校訓「質実剛健」「自学自取」のもと、誠実な心を健康な身体を持ち、学に励み克己に努める、心身ともにたくましく、しなやかな生徒を育成する。 社会を生き抜く力、知・徳・体の調和のとれた力を育み、グローバルな視点、ローカルな行動力を有し、将来、地域や日本、国際社会において活躍できる人材を育成する。 							

生徒主体の授業への転換のための取組テーマ	
<input type="checkbox"/>	自ら自己調整をしながら学習を進めていくことができる自立した学習者づくり
<input type="checkbox"/>	目標の実現に向けて生徒が自己選択や自己決定を行う機会の創出
<input type="checkbox"/>	主体的・対話的で深い学びの視点による授業と評価の改善
<input type="checkbox"/>	ICTの利活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
<input type="checkbox"/>	文理の枠を越えた教科横断的・総合的な探究課題への取組

具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> 一人一台パソコンを個別学習と協働学習の両方で活用することにより、生徒が自分のペースで学びつつ、他の生徒とリアルタイムで情報共有や共同作業を行えるよう支援する。 Classi「学習トレーニング」を活用し、生徒が自ら目標を立てて得意を伸ばしたり、弱点を克服したりできるように支援する。 校内研修などを参考に各教員がICT利活用を工夫したうえで、教員間相互授業参観で知見を共有し、各自の授業を改善する。 「つる探」(総合探究)を活用し、生徒が自己の興味関心のある分野でテーマを設定し、「仮説→調査→分析→まとめ」を主体的に行うよう環境を整える。 	

「生徒主体の授業への転換のためのアンケート」高評価数値の推移(%)	R7中間	R7末
1.自ら学習課題や学習方法を選択して自主的、自発的に学習に取り組むことができた (①強くそう思う, ②そう思う)	80.0%	85.0%
2.活用や探究など、学んだことを別の場面で使うようにすることができた (①強くそう思う, ②そう思う)	76.8%	84.1%
3.授業や単元の始まりに目標を確認することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	67.6%	77.2%
4.授業や単元の終わりに目標の達成度を自己評価することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	67.8%	73.7%
5.授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	79.5%	83.4%
6.授業の中で課題解決に向けて自分から取り組んでいる (①強くそう思う, ②そう思う)	82.0%	84.5%
7.授業の中で各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行った (①強くそう思う, ②そう思う)	76.1%	85.6%
8.他の生徒と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができた (①強くそう思う, ②そう思う)	86.0%	89.6%
9.学習した内容について、分かった点や、分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができた (①強くそう思う, ②そう思う)	79.7%	85.2%

総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の取組を含む)	
<p>上記アンケート結果を過年度と比較したところ、学習に関する各項目において全体的に改善傾向が確認された。特に、本校が重点的に取り組んできた「主体的・対話的で深い学び」の実現に関連する指標では顕著な伸びが見られた。話し合い活動、討論、発表といった言語活動の充実に加え、他者の意見や発表内容に真摯に耳を傾ける姿勢が育っていることが、生徒の回答から明確に読み取れる。これらの取り組みは年間を通じて高く評価されており、年度末には約9割の生徒が「強く思う」または「そう思う」と肯定的に回答する結果となった。総合的な探究の時間をはじめ、各教科の授業において対話的・協働的な学習活動が安定して行われ、それらが着実に定着してきていることが改めて裏付けられた形である。一方で、「授業や単元の終わりに、自ら設定した目標の達成度を適切に自己評価できたか」という項目に関しては、依然として課題が残る結果となった。年度末にはある程度の改善は認められるものの、肯定的回答は70%台前半にとどまり、他項目と比較すると相対的に低い水準である。自己評価は学習者自身の思考を深化させる重要なプロセスであり、学習の質を高める上でも欠かせない視点であることから、早急に改善に向けた具体的な方策を講じる必要がある。</p> <p>特に、日々の授業終了時に短時間で構わず振り返りの機会を確保し、ノートやワークシート等を活用して学習内容を整理させる指導の工夫が求められる。あわせて、単元のまとめの段階において、形成的評価の視点を踏まえた自己評価活動を計画的に位置付けることで、生徒自身が学びの進捗を客観的に捉えられるようにすることが次年度の大きな課題である。こうした取り組みを継続的に実施することで、主体的に学習を振り返る習慣を定着させ、生徒の学びの質的向上につなげていくことが期待される。</p>	

各教科の取組		※左欄の取組テーマの実践を通して各教科の資質・能力を育成する。		
教科	生徒が身に付ける資質・能力	中間評価	年度末評価	課題解決のための次年度の取組
国語	他者との関係を通して自己に対する理解を深める中で、世界を多様に捉える知識と視野を得ることができる。	3.9	4.0	他者の発信した言葉を読み取り、思考を深めようとする姿勢が見られた。世界の多様性について視野を広げることができた。
	言葉が持つ価値を明確に認識し、文化の担い手としての自覚を持ち、言語活動に臨むことができる。	3.8	3.9	言葉の意味、働き、使い方等に着目し、言葉への自覚を高めることができた。一方で、言葉を使いこなし、他者に効果的に思いを伝えようとする工夫はまだ足りない。
	習得した国語の知識、伝統や文化について理解を深め、幅広い視野を持って積極的に味わおうとすることができる。	3.8	3.9	知識の習得が不十分であり、幅広い視野の獲得にまで至っていない。伝統や文化について、今を生きる自分たちとの繋がりの中で味わおうとする姿勢は見られた。
地公	社会科学、人文科学等の成果に基づいた概念的知識を本質的に理解する。また、資料を的確に読み取ったり、情報を有効にまとめる技能を身に付ける。	3.8	3.9	社会的な見方・考え方を年間を通して身に付けることができた。単なる暗記にとどまらず、複数の事象をまといで応用できることを目指す。
	社会的な見方・考え方を活用して社会的な事象を多面的・多角的に考察したり、社会的な課題の解決に向けて構想し、それらを効果的に説明する力などを身に付ける。	3.8	3.8	社会的な事象に関する知識を整理し、諸事象を貫く法則や原理を使って、思考・表現することができた。
	公正で平和な社会の実現を視野に、民主的な社会の形成者として、社会的な諸課題を探究しようとする態度を身に付ける。	3.8	3.9	年間を通して、各科目への主体性や問題解決の姿勢が深まった。次年度に向け粘り強く社会的な問題への解決の姿勢を身に付けたい。
数学	基本的な概念や原理・法則の理解を深め、事象を数学的に解釈したり、式などで表現し、計算などの処理ができる。	3.8	3.8	基本的な公式や概念については理解ができているが処理に関しては支援が必要な生徒も多く、引き続き授業内での基本の徹底を目指す。
	既習の内容を基にして考察し、グラフ・表・式など数学的な表現を用いて的確に表現して説明することができる。	3.6	3.7	特に統計分野においてはICTの利用やレポート作成を通して考察力やグラフ等での表現力を養うことができた。今後も各分野における適切な教材を利用して継続した活動を行いたい。
	事象の考察や問題の解決に数学を積極的に活用して、数学的論拠に基づいて考えようとする主体的に取り組むことができる。	3.7	3.7	既習事項を利用して別解を導こうとする生徒や関連づけて考えを深められている生徒もいる。一方で苦手意識を持っている生徒が興味関心を引く教材の提示に務める。
理科	自然現象に関する基本的な概念や原理・法則についての理解を深め、見通しを持って観察・実験などを行い科学的に検証できる。	3.8	3.8	日常の自然現象から「なぜ?」という問いを引き出し、その解決に向けて実験や観察の計画を立てられる力の育成を目指す。そのためにも、基本的な概念や原理・法則を確実に定着させる必要があり、今後も関連教材を効果的に活用するなど、継続した取り組みを進めていく。
	自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、理論的に考察し、その過程や結果を表現できる。	3.7	3.7	実験や観察を通して得られたデータや現象を、科学的・理論的に考察する力を育成する。また、科学の原理・法則を根拠に他者へ説明し伝える表現力を養うため、そうした機会を継続的に確保していきたい。
	身の回りの事物・現象に主体的に関わり、科学的な視点で探究できる。	3.8	3.7	授業で扱う教材の工夫やつる探の活動を通して、身近な事物・現象への関心を高め、そこから問いが生まれる工夫を行う。生徒が主体的に、そして見通しをもって探究活動に取り組める力を育成する。
英語	英語を読んだり、聴いたり、書いたり、話したりするのに必要な語彙や言語のルールを、自分の言葉で説明することができる。	3.7	3.7	中学校での既習事項が身に付いていないまま入学する生徒もいるが、各自がそれぞれのレベルで向上を目指して取り組み、成果を上げた。今後も継続的に取り組むように促す。
	必要な情報源としての英語を正しく受信し、それに対して自分の意見や考えを、身につけた語彙や文法を使って発信するなど意思疎通ができる。	3.6	3.7	読解力やリスニング力の養成だけでなく、学年のレベルに応じた意見発表の経験も積んだ。自分の意見を言葉にすることに抵抗のある生徒も一定数いるが、周囲との人間関係を築いたり、発表のスキルを獲得したりするなかで、徐々に心理的抵抗を低減させるペースも見られた。
	英語を受信したり発信したりできるように、自ら語彙や知識を増やしたり、身につけた知識を客観的に確認したりするなど、主体的に学習に取り組む。	3.7	3.8	定期テストばかりでなく、語彙や文法の小テストも利用して知識を増やしたり、自分のレベルを確認したりする生徒がほとんどだった。自分の弱点を見極めて教材を購入して学習する生徒も多く、今後もこの姿勢を育てたい。
芸術	音楽や美、及び書を構成する要素の理解を深め、自分の作品や演奏を根拠を持って説明することができる。	3.9	4.0	音楽や美、及び書を構成する要素の理解を深め、自分の作品や演奏を根拠を持って説明することができた。
	芸術のよさや美しさを感受し、自己の意図に基づいて創造的に構想し表現を工夫することができる。	3.9	4.1	芸術のよさや美しさを感受し、自己の意図に基づいて創造的に構想し表現を工夫することができた。
	感性を高め、芸術の伝統や文化に親しみ、表現や鑑賞の幅広い活動に主体的に関わることができる。	4.0	4.2	感性を高め、芸術の伝統や文化に親しみ、表現や鑑賞の幅広い活動に主体的に関わることができた。
家庭	生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る知識・技術を実践的な活動を通して身につけることができる。	3.7	3.9	日々の授業や被服実習・調理実習を通し、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る知識・技術を実践的な活動を通して身につけることができた。実習の機会を増やし、実践的な学びを取り入れていくことが課題である。
	家庭や地域及び社会における生活の中から課題を発見し、解決策を見いだし、根拠に基づいて論理的に表現することができる。	3.6	3.8	ホームプロジェクトなどを通し、家庭や地域及び社会における生活の中から課題を発見し、解決策を見いだし、根拠に基づいて論理的に表現することができた。学びが実践につながるよう工夫していきたい。
	様々な人々と協働し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうと主体的に取り組むことができる。	3.7	3.9	保育実習などを通して、様々な人々と協働し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうと主体的に取り組むことができた。
保体	運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、生涯にわたって運動を豊かに継続することができる技能を身に付けることができる。	4.1	4.0	運動の必要性について理解することができた。しかし、技能を身につけられたかという点については個人差が大きかったように感じる。
	各単元において獲得した運動スキルを元に、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて行動することができる。	4.0	4.0	動画撮影による即時フィードバックにより課題を発見することができた。課題をどのように解決していくかという点については、授業展開の工夫が必要である。
	健康・安全を確保した上で、運動における競争や協働に親しむとともに、公正に取り組む、互いに協力する意欲や態度を養うことができる。	4.1	4.1	自ら運営・展開していく機会を与えたことで、大きく力を伸ばすことができたと感じる。今後も振り返りを重視し授業を展開させていきたい。
情報	コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得することができる。	3.8	3.8	コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得することができた。
	問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用することができる。	3.6	3.8	問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用することができた。
	情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に関わることができる。	3.8	3.8	情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に関わることができた。
研究	社会的な課題に関連する統計情報を効果的に活用し、分析する技能を身に付けることができる。	4.1	4.1	社会的な課題を統計的に分析し、情報を適切に処理する能力を身に付けることができた。
	統計情報や一次資料から、問いを立て、課題解決に資する視点や方法をもとに、仮説を検証したり新たな問いを立てたりすることができる。	4.1	4.1	地域に関わる課題を、統計的な視点を活用しつつ、問いを設定し、地域調査を含めながら研究し仮説を検証することができた。
	身近な地域に対する関心をもち、地域調査を行い、課題解決への態度や行動を身に付けることができる。	4.1	4.1	研究の成果を学内外に発表し、地域との関わりを深めたり、新たな課題の発見を通じて学風に向かう態度を高めたりすることができた。
総探	情報を収集して適切に分類し、探究の考察のために必要な基礎的な知識、情報の整理をすることができる。	4.0	4.1	適切な情報収集を通して、自己の興味・関心のあるテーマを設定し、主体的に問題解決に取り組む態度の育成できた。今後もより一層活発な探究活動が望まれる。
	他年次と協働しながら、問いの発見、実験・検証、新たな問いをつくるプロセスを経て、課題解決の思考力や判断力・表現力を養うことができる。	3.9	4.1	年次混合グループでの活動、生徒の主体性を引き出す指導、校内外でのプレゼンテーション機会の確保を通して、コミュニケーション能力の育成を図る。
	自らの関心をもとに主体的に行動し、外部と連携したり、探究の過程を粘り強く再構成したりする態度を養う。	3.9	4.1	今後も自治体や企業、団体との共同研究、校内外でのプレゼンテーション機会の確保を通して、コミュニケーション能力の育成を図る。